

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 飛驒特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年12月16日(月) 9:30~11:30
- 3 開催場所 飛驒特別支援学校本校 ビルクリーニング室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者
- | | | | |
|-----|--------|---------------------|-----------------|
| 会長 | 柏木 真司 | NPO法人ウェルコミュニティ飛驒 | |
| 副会長 | 白田 成男 | 飛驒特別支援学校高山日赤分校PTA会長 | |
| 委員 | 石原 真悠子 | 飛驒特別支援学校本校PTA会長 | |
| | 霜山 紀代乃 | 花里まちづくり協議会事務局長 | |
| | 桑原 宏之 | 新宮まちづくり協議会代表 | |
| | 田中 雪子 | 山ゆり学園施設長 | |
| | 丸山 永二 | 高山市社会福祉協議会事務局長 | |
| | 松下 孝治 | 高山市市民福祉部福祉課課長(欠席) | |
| | 大坪 希美枝 | 環境ネット(株)サービス管理責任者 | |
| | 伊藤 早苗 | まちひとふら座かんかこかん運営委員長 | |
| | 学校側 | 竹田 万里子 | 校長 |
| | | 熊崎 礼子 | 高山日赤分校副校長兼高等部主事 |
| | | 長瀬 美智代 | 本校教頭 |
| | | 伏屋 俊宏 | 事務部長 |
| | | 新屋 郁子 | 本校小学部主事 |
| | | 島ノ上 麻美 | 本校中学部主事 |
| | 田中 一幸 | 本校高等部主事 | |
| | 中林 亜紀子 | 高山日赤分校小・中学部主事 | |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 授業見学

(2) 令和6年度の取組と来年度に向けてについて

意見1: 保護者への周知として、HPを見やすくするとよい。新着情報や更新を分かりやすくし、本校と分校をリンクさせるとよいのではないかな。

意見2: 今回授業参観をしたが、保護者が他の児童生徒の授業を参観する機会があってもよい。

意見3: 居住地校交流のときに、特別支援学級だけでなく通常学級の児童生徒にも知ってもらえるように、掲示等の工夫ができるとよいのではないかな。

意見4: キャリア教育について、教員の研修を深め、教員によって知っている情報の差がないようにできるとよい。

意見5: 地域の学校へ特別支援教育の考え方や手立て等の情報を提供し、専門性を発揮してほしい。

意見6: 地域文化祭への参加に感謝している。より多くの観客に発表を見てもらえるよう、今後出演の方法を工夫したい。また、文化祭での箏の演奏や学校祭での発表を見て、

こんなことができるんだと感心した。

意見 7 : 高山日赤分校はひっそりとした環境に立地していて知らない人も多い。本校の行事等をきっかけに分校のことを知ってもらえるとよい。

意見 8 : 学校が新たに挑戦しようとする姿がすばらしい。子どもたちは教員の背中を見ているし、保護者もうれしいと思う。

意見 9 : 社会福祉協議会では、地域の居場所づくりに取り組んでいる。お互いが支え、支えられる存在として、卒業後も生徒が地域で役割を担う立場になることもあると考えている。

⇒本校の同窓会でサポーターシステムを導入したところ、手伝いたいという卒業生が大勢いた。自分の力を発揮して動く場面があった。

意見 10 : 地域の小中学校との交流はどんどんやってほしい。双方向の交流を大切にすることでお互いに学ぶことがある。

意見 11 : 地域の学校に学校の考え方や支援の手立てを伝えてほしい。

意見 12 : 働き方改革はどうなっているのか。

⇒学校には、給食の二次調理や教材作りなどをする、教員以外の職員も働いている。作品展や写真展では P T A から搬出入の協力を得ている。今後も働き方改革を推進したい。教員は、生徒のことや授業のことを語り合う時間も大切にしたいと考えている。

意見 13 : 作業学習では丁寧な作業をしており、目で見て確認できるような工夫や、常に教員が見守る体制がありよい。レシピの内容が一般的なものだったが、生徒は理解しているのか。また、作業量の目標は立てているのか。

⇒今後の参考にさせていただきたい。

意見 14 : 就労継続支援 A 型の事業所では、安全第一、正確な作業、スピードを求めている。スピード面で力がつくように工夫するとよい。また、生徒自身が考えて動くことも大切にして、身に付けてほしい。

意見 15 : 縦割りの活動は、先輩にあこがれ、活動への意欲が出てよい。

意見 16 : 一人一人の多様なニーズに対して、福祉事業が対応する難しさがある。高等部卒業時点での事業所との関わりではなく、高等部 1 年生からの関わりが大切になると考えている。

⇒今、様々な状態の不登校の生徒もいる。毎日学校に来ることが当たり前ではなく、一人一人のニーズを把握していかなければと思う。

意見 17 : 学校運営協議会において、5 年先、10 年先の構想をもとに、学校と連携していきたい。

6 会議のまとめ

- ・会議では、学校の取組について肯定的な意見や改善点についての意見が多く得られた。校内で意見を共有し、参考にしながら改善や取組の工夫を行い、今後も実践を継続していく。
- ・来年度も今年度からの三つの重点を継続していくこと、「教育活動の充実（キャリア教育）」は学校での取組として位置付け、「教育活動の周知」「地域との連携」の二つを地域に働きかける活動として位置付け、相互に関連させながら「児童生徒が地域の中で自分らしく生き生きと生きる」姿につなげていきたいことを説明し、承認が得られた。